

令和8年度 松山東高等学校シラバス

履修規定（必修・選択）

教 科	国語	科 目	論理国語	学年	3	類型	I 型
単位数	3	教科書	精選論理国語（三省堂）				
副教材	現代文キーワード読解（Z会）・国語便覧（大修館書店）						

学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。 (1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2)論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げ深めることができるようにする。 (3)言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
------	--

評価規準	【知識・技能】 言葉の働きを理解し、学術的な学習の基礎となる語句の量を増やしつつ、語感を磨き語彙を豊かにしている。文や文章の効果的な組み立て方、接続の仕方、文章の構成や展開の仕方に理解を深めている。	【思考・判断・表現】 論理的、批判的に考える力や、創造的に考える力を身に付け、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げ深めている。	【主体的に学習に取り組む態度】 生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚も深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、ものの見方、感じ方、考え方を深めている。
------	---	---	---

学 習 計 画 及 び 内 容				評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	1 論理国語へのいざない	「論理力と思考力」・「納得の構造」	◎	○	◎	第1回
	5月	2 「情報社会」を生きるⅡ	「情報の「メタ」化」 「情報ネットワーク社会」・「疑似群衆の時代」 「流言とメディア」	◎	◎	○	
	6月	3 言葉を見つめるⅡ	「夢は何語で見る？」・「『対話』の言葉をつくる」	◎	◎	○	
	7月	4 共生社会を創造する	「母親のための酸素マスク」 「講演 持続可能な福祉社会への道」	○	◎	◎	
2 学 期	8月	5 経済について考える	「『私』消え、止まらぬ連鎖」・「落語の中の経済学」	○	◎	○	第2回
	9月	6 国際社会を考える	「スポーツとナショナリズム」・「南の貧困／北の貧困」 「『文化が違う』とは何を意味するのか？」	◎	○	◎	
	10月	7 心と向き合う	「恐怖とは何か」・「生命との関わり 精神科医として」 「あるく共生」の経験から」	◎	◎	○	
	11月	8 「リスク社会」を生きる	「コンコルドの誤り」・「リスク社会論」	◎	○	◎	第3回
	12月	9 近代・現代社会を考える	「コンクリートの時代」・「現代日本の開化」	○	◎	◎	
3 学 期	1月	10 「市民社会」について考える	「『である』ことと『する』こと」	○	◎	◎	
	2月						
	3月						

学習の方法	文章について分析し、内容を深く理解する。その上で、筆者の考え方や登場人物の行動についての自らの考えを明確にする。 機会を捉えて、班やクラス全体での話し合いを行うので、場に応じた話し方や説得力のある文章構成等、個々の表現能力を磨き続けなければならない。 年3回の考査や実力テストを通して、大学入試等に必要な力を養っているか検証する。
-------	--

評価の仕方	定期考査に加え、提出物（課題、ノート、学習プリント等）の成績などを総合的に評価します。 また、平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や参加姿勢に加え、読解力・理解力・聞く能力・表現力などを総合的に評価します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	--

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	国語	科 目	文学国語	学年	2	類型	共通
単位数	2	教科書	文学国語（筑摩書房）				
副教材	『上級現代文』						

学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。 (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2)生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。 (3)言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。
------	---

評価規準	【知識・技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	【思考・判断・表現】 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感し豊かに想像する力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げ深めている。	【主体的に学習に取り組む態度】 生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚も深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、ものの見方、感じ方、考え方を深めている。
------	--	---	---

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	物語が生まれる場所 随想・評論（一）	『小説とは何か』三島由紀夫	○	○	◎	第1回
	5月	交差するドラマ 小説（一）	『舞姫』森鷗外				
	6月			○	◎	○	
	7月						
2 学 期	8月	文体がひらく世界	『水仙』太宰治	○	◎	○	第2回
	9月	小説（二）					
	10月	表現を突き詰める 随想・評論（三）	『無常ということ』小林秀雄	◎	○	○	
	11月	小説の可能性 小説（三）	『藤野先生』魯迅 『沈黙』村上春樹	○	◎	○	第3回
12月							
3 学 期	1月	詩歌という隣人 詩歌	『無題』吉原幸子 『旅情』石垣りん 『N森林公園の冬』北村太郎 俳句	◎	○	○	
	2月						
	3月						

学習の方法	文章について分析し、内容を深く理解する。その上で、評論・文芸に関わらず、筆者の考え方や登場人物の行動についての自らの考えを明確にする。 機会を捉えて、班やクラス全体での話し合いを行うので、場に応じた話し方や説得力のある文章構成等、個々の表現能力を磨き続けなければならない。 年3回の考査や実力テストを通して、大学入試等に必要な力を養っているか検証する。
-------	---

評価 の 仕 方	定期考査に加え、提出物（課題、ノート、学習プリント等）の成績などを総合的に評価します。
	また、平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や参加姿勢に加え、読解力・理解力・聞く能力・表現力などを総合的に評価します。

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	国語	科 目	古典探究	学年	2	類型	共通
単位数	2	教科書	東京書籍「精選古典探究 古文編・漢文編」(古探702・703)				
副教材	新明説総合古典文法(尚文出版)・新明説漢文(尚文出版)						

学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
------	--

評価規準	【知識・技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。	【思考・判断・表現】 論理的に考える力や深く共感し豊かに想像する力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げ深めることができる。	【主体的に学習に取り組む態度】 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っている。
------	--	--	---

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	説話1(古文編)	『宇治拾遺物語』 『発心集』	◎	◎	○	第1回
	5月	史話(漢文編)	三国志の世界 日本外史	○	◎	○	
	6月	日記2(古文編)	『紫式部日記』 『和泉式部日記』	○	◎	◎	
	7月	詩3(漢文編)	李白と杜甫	◎	○	◎	
		作り物語2(古文編)	『源氏物語』	◎	○		
2 学 期	8月	"	"	○	◎	○	第2回
	9月	史記2(漢文編)	『荊軻伝』 『韓信伝』	○	◎	○	
	10月	評論(古文編)	『俊頼髓脳』 『無名抄』	○	◎	◎	
	11月	白楽天と日本文学(漢文編)	『長恨歌』『和漢朗詠集』	◎	○	○	
	12月	歴史物語(古文編)	『大鏡』(二)	◎	○		
3 学 期	1月	小説2(漢文編)	『桃花源記』	○	◎	○	
		評論(古文編)	『源氏物語玉の小櫛』	◎	◎	○	
	2月						
	3月						

学習の方法	文章について分析し、内容を深く理解する。その上で、評論・文芸にかかわらず、筆者の考え方や登場人物の行動についての自らの考えを明確にする。 機会を捉えて、班やクラスでの話し合いを行うので、場に応じた話し方や説得力のある文章構成等、個々の表現能力を磨き続けなければならない。 年3回の考査や実力テストを通して、大学入試等に必要な力を養っているか検証する。
-------	---

評価の仕方	予習は当然行うものとして準備する。発表、話し合いなどの日常の取組についても評価の対象とする。よって、文法力・語彙力、漢文独特の句法・歴史、古典の知識(有職故実等)も鍛えておく必要がある。定期考査による評価に加え、夏季・冬季の長期休暇で与えられる課題(意見文、感想文、サブテキスト等)や平常の小テストの成績などを総合的に評価していく。
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	地理歴史	科 目	地理探究	学年	第3学年	類型	I・II型
単位数	3単位	教科書	地理探究（二宮書店） 詳解現代地図最新版（二宮書店）				
副教材	新編地理資料（東京法令出版）新地理要点ノート（啓隆社）						

学習目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
------	--

評価規準	【知識・技能】 知識：地理に関わる諸事象や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解する。 技能：地図や地理情報システムなどを用いて、効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 空間的相互依存作用や地域などに着目して、多面的・多角的に考察しそれを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養っている。	【主体的に学習に取り組む態度】 地理に関わる諸事象について、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養っている。
------	--	---	--

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	第3章 人・モノ・金のつながり ①交通・通信	交通・通信に関する規則性や現状、課題、解決策について研究し、多角的に考えて表現する。	○	○	○	第1回
	5月	②貿易・観光	運輸と観光に関するパターンや課題を理解し、貿易の構造や流れを分析し、「経済連携」などのテーマを多角的に探求する。	○	○	○	
	6月	第4章 人口、村落・都市 ①人口 ②村落・都市	集落と都市の諸事象や問題を簡潔に理解し、「世界の居住問題」などの主題で集落の機能や形態を考察し表現する。	○	○	○	
	7月	第5章 文化と国家 ①生活文化と言語・宗教 ②国家とその領域	生活文化と言語・宗教、国家と領域に関する規則性や傾向性、民族・領土問題の現状や解決に向けた取組を理解する。多様な文化や国家の特徴に着目し、主題を設定し、多角的に考察する。	○	○	○	
2 学 期	8月	第1章 地域区分	世界のさまざまな地域について、自然や農牧業、歴史的背景・民族、産業・経済構造、地域紛争、国際関係といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させる。		○	○	第2回
	9月	①中国 ②朝鮮半島 ③東南アジア			○	○	
	10月	④南アジア ⑤西アジア・中央アジア			○	○	第3回
	11月	⑥北アフリカ・サブサハラアフリカ ⑦ヨーロッパ ⑧アングロアメリカ		○	○	○	
	12月	⑩ラテンアメリカ ⑪オーストラリア ⑫ニュージーランドと島嶼国		○	○	○	
		共通テスト対策		○	○	○	
3 学 期	1月	共通テスト対策		○	○	○	第4回
	2月			○	○	○	
	3月			○	○	○	

学習の方法	・地理や社会現象全般にわたる基本的知識を応用して、地理的思考力・考察力を養います。 ・世界各地の地域性や類似性・法則性、異文化の理解を目指します。 ・地球的な課題を広い視野から総合的にとらえ、その解決方法を深く考察します。 ・大学入試に向けて問題演習などを積極的に取り入れて、学力のレベルアップを目指します。
-------	---

評価の仕方	・定期考査に加え、提出物、小テストの成績、日頃の学習態度等を総合的に評価します。 ・地理的基礎知識はもちろん、地理的事象に関する興味・関心の程度、地図・図版・統計資料等を関連づけて、地理的な見方・考え方が身に付いたかを評価します。
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	地理歴史	科 目	日本史探究	学年	第3学年	類型	I 型
単位数	3単位	教科書	日本史探究『詳説日本史』（山川出版社）				
副教材	新詳日本史（浜島書店）						

学習目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
------	---

評価規準	【知識・技能】 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解している。諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身に付いている。	【思考・判断・表現】 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、多面的・多角的に考察し、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したことを効果的に説明するなどの力が身に付いている。	【主体的に学習に取り組む態度】 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身に付いている。また、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚がある。
------	--	--	---

学 習 計 画 及 び 内 容				評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	第10章 幕藩体制の動揺	・幕府・諸藩がおこなった諸改革の意義とその影響について考察します。諸資料を読み取り、百姓一揆や打ちこわしの実態について学びます。江戸時代中期から後期にかけての文化について、欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化や、社会の変容・幕藩体制の動揺と関連付けて学びます。	○	○	○	第1回
	5月	第11章 近世から近代へ	・国際環境の変化に着目し、開国を社会・経済面の変化と関連させて考察します。幕末の動乱の過程を多角的に考察し、近世から近代への変化について、時代を通観して学びます。	○	○	○	
	6月	第12章 近代国家の成立	・明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目し、政治的変革と国家的統一過程について学びます。自由民権運動の始まりから立憲国家の成立について学びます。	○	○	○	
	7月	第13章 近代国家の展開	・東アジアをめぐる国際環境の変化の中で、不平等条約の改正交渉の展開と、日清・日露戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化について学びます。資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して学びます。近代文化の特色、大衆文化の特色について学びます。	○	○	○	
		第14章 近代の産業と生活		◎	◎		
2 学 期	8月	第15章 恐慌と第二次世界大戦	・戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済について学びます。軍部の台頭を背景に、日中戦争から太平洋戦争に至る過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して考察します。	○	○	○	第2回
	9月	第16章 占領下の日本	・占領政策および民主化政策とそれともなう諸改革について、その経過と内容について学びます。日本国憲法制定の意義と、日本の独立の意義について考察します。	◎	◎		
	10月	第17章 高度成長の時代	・55年体制の歴史的意義や1960年代の保守政権の安定化について学びます。高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新など、多面的・多角的に考察します。	○	○	○	
	11月	第18章 激動する世界と日本	・高度成長の終焉、2度の石油危機を乗り越え、経済大国として歩み始めた日本について、多面的・多角的に考察します。冷戦終結後の国際関係、55年体制の崩壊、バブル経済から平成不況へと展開していく、日本の政治・外交・経済・生活文化について、自ら課題を見出して学びます。	◎	◎		第3回
	12月	分野別総合問題演習					
3 学 期	1月	分野別総合問題演習	・演習問題やマーク式問題等に取り組むことで、総合的な力を養う。	◎	◎	○	
	2月						
3月							

学習の方法	授業を中心に教科書・図説・整理ノートを活用して、日本の歴史の流れを整理・理解していきます。 人名や事件の名称を単に暗記するのではなく、歴史事象の背景や結果とその影響などを総合的に理解・考察していくことが大切です。 年3回の定期考査ごとに学習内容をまとめ、基礎知識の整理をはかる必要があります。
-------	--

評価の仕方	定期考査に加え、小テスト・提出物の成績などを総合的に評価します。 また、平常の取組についても評価の対象とします。日本史に関する知識理解はもちろん、歴史に対する興味関心の程度、過去との出来事を分析し、現在や未来に結びつけて物事を考察する歴史的思考力などを総合的に班案して評価します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	地理歴史	科 目	日本史探究	学年	第3学年	類型	Ⅱ型
単位数	3単位	教科書	日本史探究『詳説日本史』（山川出版社）				
副教材	新詳日本史（浜島書店）						

学習目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
------	---

評価規準	【知識・技能】 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解している。諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身に付いている。	【思考・判断・表現】 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、多面的・多角的に考察し、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したことを効果的に説明するなどの力が身に付いている。	【主体的に学習に取り組む態度】 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身に付いている。また、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚がある。
------	--	--	---

学 習 計 画 及 び 内 容				評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	第9章 幕藩体制の成立と展開	・幕藩体制の確立、鎖国政策について、その影響と歴史的意義について学びます。幕府・諸藩がおこなった諸改革の意義とその影響について考察します。百姓一揆や打ちこわしの実態について学びます。江戸時代中期から後期にかけての文化について、欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化や、社会の変容・幕藩体制の動揺と関連付けて学びます。 ・国際環境の変化に着目し、開国を社会・経済面の変化と関連させて考察します。幕末の動乱の過程を多角的に考察し、近世から近代への変化について、時代を通観して学びます。 ・明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目し、政治的変革と国家的統一過程について学びます。自由民権運動の始まりから立憲国家の成立について学びます。 ・東アジアをめぐる国際環境の変化の中で、不平等条約の改正交渉の展開と、日清・日露戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化について学びます。資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して学びます。近代文化の特色、大衆文化の特色について学びます。	○	○	○	第1回
	5月	第10章 幕藩体制の動揺		○	○	○	
	6月	第11章 近世から近代へ		○	○	○	
	7月	第12章 近代国家の成立		○	○	○	
		第13章 近代国家の展開		○	○	○	
		第14章 近代の産業と生活		◎	◎		
2 学 期	8月	第15章 恐慌と第二次世界大戦	・戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済について学びます。軍部の台頭を背景に、日中戦争から太平洋戦争に至る過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して考察します。 ・占領政策および民主化政策とそれともなう諸改革について、その経過と内容について学びます。日本国憲法制定の意義と、日本の独立の意義について考察します。 ・55年体制の歴史的意義や1960年代の保守政権の安定化について学びます。高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新など、多面的・多角的に考察します。 ・高度成長の終焉、2度の石油危機を乗り越え、経済大国として歩み始めた日本について、多面的・多角的に考察します。冷戦終結後の国際関係、55年体制の崩壊、バブル経済から平成不況へと展開していく、日本の政治・外交・経済・生活文化について、自ら課題を見出し学びます。	○	○	○	第2回
	9月	第16章 占領下の日本		◎	◎		
	10月	第17章 高度成長の時代		○	○	○	
	11月	第18章 激動する世界と日本		◎	◎		第3回
	12月	分野別総合問題演習		◎	◎		
		分野別総合問題演習		◎	◎	○	
3 学 期	1月	分野別総合問題演習	・演習問題やマーク式問題等に取り組むことで、総合的な力を養う。	◎	◎	○	
	2月						
	3月						

学習の方法	授業を中心に教科書・図説・整理ノートを活用して、日本の歴史の流れを整理・理解していきます。人名や事件の名称を単に暗記するのではなく、歴史事象の背景や結果とその影響などを総合的に理解・考察していくことが大切です。 年3回の定期考査ごとに学習内容をまとめ、基礎知識の整理をはかる必要があります。
-------	--

評価の仕方	定期考査に加え、小テスト・提出物の成績などを総合的に評価します。 また、平常の取組についても評価の対象とします。日本史に関する知識理解はもちろん、歴史に対する興味関心の程度、過去との出来事を分析し、現在や未来に結びつけて物事を考察する歴史的思考力などを総合的に班案して評価します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	地理歴史	科 目	世界史探究	学年	第 3 学年	類型	I 型
単位数	3 単位	教科書	『詳説世界史』（山川出版社）				
副教材	『アカデミア世界史』（浜島書店）						

学習目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
------	--

評価規準	【知識・技能】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養っている。	【主体的に学習に取り組む態度】 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して顕微される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。
------	---	---	---

学 習 計 画 及 び 内 容				評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4 月	第10章 アジアの諸帝国の繁栄	・オスマン帝国やムガル帝国といった、アジアで成立した帝国の基礎が築かれた経緯や当時の人々に与えた影響を理解する。 ・ルネサンスや宗教改革が後世に与えた影響を考察し、表現する。 ・主権国家体制の成立の経緯を考察し、表現する。 ・イギリスから産業革命が始まった背景や、アメリカの独立やフランス革命、ナポレオンの台頭の経緯を理解する。 ・1848年革命の展開と影響について、ヨーロッパ内の地域差に着目して考察し、表現させる。 ・国民文化と国民国家形成の関係を考察し、表現する。 ・オスマン帝国と東南アジア諸国がヨーロッパ列強に従属した経緯を理解する。 ・東アジア各地の開港や貿易拡大の影響を理解する。	◎		○	第 1 回
	5 月	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向		○	◎		
	6 月	第12章 産業革命と環大西洋革命		◎	○		
	7 月	第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成			◎	○	
	7 月	第14章 アジア諸地域の動揺		◎		○	
2 学 期	8 月	第15章 帝国主義とアジアの民族運動	・列強の支配を受けた地域の変化を考察し、表現する。 ・20世紀初頭の列強体制の枠組みの変化やアジア各地での民族運動の背景について、考察し、表現する。 ・第一次世界大戦の背景や第一次世界大戦後の新たな国際秩序が形成された経緯を理解する。 ・第一次世界大戦後の民族運動の経緯を理解する。 ・世界恐慌が起こった背景や影響を考察し、表現する。 ・第一次世界大戦と比較し、第二次世界大戦の特徴を考察し、表現する。 ・米ソそれぞれの同盟網の広がりや核開発競争の経緯を理解する。 ・冷戦終結後の東アジア諸国の変化や地域・民族紛争の背景を考察し、表現する。	○	◎		第 2 回
	9 月	第16章 第一次世界大戦と世界の変容		◎	○		
	10 月	第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成			◎	○	第 3 回
	11 月	第18章 冷戦と第三世界の台頭		◎	○		
	12 月	第19章 冷戦の終結と今日の世界		○	◎		
	12 月	分野別総合問題演習					
3 学 期	1 月	分野別総合問題演習	・演習問題やマーク式問題等に取り組むことで、総合的な力を養う。	○	◎		
	2 月						
	3 月						

学習の方法	・授業を中心に教科書・図説・プリントを活用して世界の歴史の流れを整理・理解していきます。 ・人名や事件の名称を単に暗記するのではなく、歴史事象の背景や結果とその影響などを総合的に理解・考察していくことが大切です。 ・年3回の定期考査ごとに学習内容をまとめ、『一問一答世界史』（山川出版社）などを活用して知識の整理を図ることが必要です。
-------	---

評価の仕方	・定期考査に加え、提出物・小テストの成績などを総合的に評価します。 ・平常の取組についても評価の対象とします。世界史に関する知識・理解はもちろん、歴史に対する興味・関心の程度、過去の出来事を分析し、現在や未来に結びつけて物事を考察する歴史的思考力などを総合的に評価します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	公民	科 目	倫理	学年	第3学年	類型	I 型
単位数	3単位	教科書	高等学校倫理（第一学習社）				
副教材	最新図説 倫理（浜島書店）						

学習目標	・「人生いかに生きるべきか」という問題について、愛の教えや人間の尊厳の思想、自由平等の理念などを通して、自分自身の主体的問題として考える。 ・学んだ知識を生かして、人生観・世界観を育て、自らの人格形成に努める。 ・良識ある社会人として必要な能力と態度を育て、21世紀を生きていく総合的な人間力を培う。
------	--

評価規準	【知識・技能】 古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けようとしている。	【思考・判断・表現】 自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養おうとしている。	【主体的に学習に取り組む態度】 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自尊を深めようとしている。
------	---	--	--

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	第1章 青年期の課題と自己形成	・自分で自分を意識すること、そしてその自分の人生を自分自身でつくっていかなくてはならないことを理解する。 ・神学から哲学へと進化していった歴史的發展は、人生観や世界観の形成にどんな意味を持つのかを理解する。 ・イエスの行いの宗教的な意味を考える。 ・イスラームが、宗教を越えた社会全体を律する教えであることを考える。 ・仏教が人間をどのようにとらえているか、どう生きていくかについて考える。 ・中国の思想的源流について理解する。 ・外来文化を受容することによって形成されてきた日本の文化にみられる特質としての文化の重層性を考える。	○	◎	○	第1回
	5月	第2章 人間としての自覚		○	◎	○	
	6月	・ギリシャの思想 ・キリスト教 ・イスラーム		○	◎	○	
	7月	・仏教 ・中国の思想		○	◎	○	
2 学 期	8月	第3章 日本の思想	・日本人の思想や文化に大きな影響を与えている仏教がどのように伝えられ、どのように変化していったかを理解する。 ・儒教が日本人の精神形成に与えた影響と日本人の人間関係の基礎には、儒教倫理があることを理解する。 ・西洋思想の受容によって形成された思想とその影響について理解する。 ・ルネッサンスと宗教改革の思想的中心となった人文主義や福音主義について学習し、それらが近代的な人間中心主義の出発点になったことを理解する。 ・近代科学の方法論を学習し、経験論と合理論の考え方の特色を考察する。 ・ホッブズ・ロック・ルソーの社会契約説やカント・ヘーゲルの自由の実現を理解し、近代市民生活における個人と社会の関係について考察する。 ・社会主義思想や実存主義、プラグマティズムについて学び、人間の「生き方」や主体性の確立について理解する。 ・理性に信頼をおく近代の人間像を問い直そうとする現代の思想とその人間像について理解する。 ・国際社会に生きる日本人として、これからの自分のあり方・生き方について考える。	○	◎	○	第2回
	9月	・日本の風土と伝統		○	◎	○	
	10月	・外来思想の受容		○	◎	○	
	11月	第4章 西洋思想		○	◎	○	第3回
	12月	・現代の特質		○	◎	○	
	12月	・人間の尊厳		○	◎	○	
	12月	・科学革命と自然観 ・自由で平等な社会		○	◎	○	
3 学 期	1月	人間性の回復と主体性の確立	・現代社会の諸課題と倫理について総括し、「人間の生き方」を深く考える。 ・大学入学共通テスト対策の問題演習を行う。	○	◎	○	
	2月	・現代思想と人間像					
	3月	・生命への畏敬					

学習の方法	基本的には教科書に沿って授業を進めます。教科書や副教材の図説をもとに担当教員がオリジナルで作成した学習プリントを解きながら、基礎的事項の定着を図ります。「現代社会」に重複する分野はありますが、3年生で始める科目ですので、普段は「一問一答倫理用語問題集」や市販の問題集等を活用しながら、しっかりと予習復習することが大切です。「人間の生き方」を学ぶ科目ですので、それに関する文献等の読解力も必要となります。朝の読書などで本を読み、自分の意見をまとめる能力が必要となります。
-------	--

評価の仕方	・授業態度やノート、授業プリント、確認問題集等の活用状況を点検し評価します。 ・資料をもとに、思考・判断する能力を小テストや定期考査の問題等で評価します。 ・小テストや定期考査において、授業で学習した基礎的事項の理解度を評価します。
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	公民	科 目	政治・経済	学年	第3学年	類型	I 型
単位数	3 単位	教科書	詳述 政治・経済（実教出版）				
副教材	最新図説 政経2026（浜島書店）						

学習目標	・民主主義の本質に関する理解を深め、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解する。 ・現在、身の回りで起きている諸課題について、主体的に考察し、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育む。
------	--

評価規準	【知識・技能】 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養っている。	【主体的に学習に取り組む態度】 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めている
------	--	--	---

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	第1部 第1編 現代の政治	・基本的人権の意義、法の支配、民主政治の発達と人権発達、世界の政治体制などを学習し、民主政治の本質を把握するとともに課題を考察する。 ・日本国憲法の成立から平和主義、基本的人権の保障の内容を学習し、今日における日本国憲法の意義を理解する。 ・三権分立の意義と機能、地方自治のしくみを学習し、民主主義の意義を理解する。 ・戦後政治の流れと日本の特徴、政党と選挙、世論の役割などについて学習し、望ましい政治のあり方及び主権者としての政治参加のあり方について考察する。 ・経済活動の特徴、資本主義経済の発達と変容について学習し、経済のグローバル化、現代経済の仕組みや機能について考察する。	○	◎	○	第1回
	5月	第1章 民主政治の基本原則		○	◎	○	
	6月	第2章 日本国憲法の基本的性格		○	◎	○	
	7月	第3章 日本の政治機構		○	◎	○	
	7月	第4章 現代日本の政治		○	◎	○	
2 学 期	8月	第1部 第2編 現代の経済	・経済主体の役割、市場経済の機能と限界、経済成長と景気変動などについて学習し、現代経済の特徴を把握する。 ・戦後の日本経済、日本の農業、労働問題、社会保障について学習し、現代経済の特徴を把握し、経済活動のあり方と福祉の向上について考察する。 ・国際社会の変遷、人権、国家主権、領土に関する国際法の意義、国際機構の役割を理解するとともに日本の役割について考察する。 ・貿易の意義、為替相場や国際収支の仕組み、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について学習し、国際経済における日本の役割について考察する。	○	◎	○	第2回 第3回
	9月	第1章 経済社会の変容		○	◎	○	
	10月	第2章 現代経済のしくみ		○	◎	○	
	11月	第3章 現代経済と福祉の向上		○	◎	○	
	12月	第2部 第1章 現代の国際政治		○	◎	○	
3 学 期	1月	第2部 第2章 現代の国際経済	・政治や経済に関する基本的な理解を踏まえ、持続可能な社会の形成が求められる現代社会の諸課題を探究する活動を通して、望ましい解決のあり方について考察する。 ・大学入学共通テスト対策の問題演習を行う。	○	◎	○	
	2月	問題演習					
	3月						

学習の方法	基本的には教科書に沿って授業を進めます。教科書や副教材の図説をもとに担当教員がオリジナルで作成した学習プリントを解きながら、基礎的事項の定着を図ります。「現代社会」に重複する分野はありますが、3年生で始める科目ですので、普段は「政治・経済10分間テスト」や市販の問題集等を活用しながら、しっかりと予習復習することが大切です。新聞記事や文献等を用いて、自分で考え、文章にまとめる能力の育成を図ります。
-------	--

評価の仕方	・小テストや定期考査において、授業で学習した基礎的事項の知識・技能と思考・判断・表現を評価します。 ・定期考査や小テストに加え、ワークシートやレポートなどの提出物で総合的に評価します。 ・平常の取組についても評価の対象とします。倫理、政治、経済に関する知識・理解はもちろん、社会的事象に対する興味・関心の程度、過去や現代の出来事を分析し、現在や未来に結びつけて物事を考察する思考力などを総合的に評価します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	数学Ⅲ	学年	第3学年	類型	Ⅱ 型
単位数	4 単位	教科書	改訂版「数学Ⅲ」（数研出版）				
副教材	問題集「新課程 参考書「新課程	サクシード NEW ACTION LEGEND	数学Ⅲ＋C」（数研出版） 数学Ⅲ」（東京書籍）				

学習目標	・数学Ⅱでの復習をするとともに、関数の幅を広げて数学Ⅲの基礎力を向上させる。 ・演習においては、基本的な問題を解くことにより重要事項を再確認し、応用的な問題演習で論理的思考力を養うとともに、実力を身に付ける。
------	---

評価規準	【知識・技能】 数学Ⅲの内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識及び、事象を数学的に表現・処理する方法などの技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 数学Ⅲの内容において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方を身に付けている。	【主体的に学習に取り組む態度】 数学Ⅲの内容において、その考え方に興味を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとしている。
------	--	--	--

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	数学Ⅲ 第1章 関数	・分数関数・無理関数の理解を深めるとともに、逆関数や合成関数についても習熟を図る。	○		○	第1回
	5月	第2章 極限	・無限級数の和の求め方とその応用について理解する。また、関数の連続性についての定義を理解する。	○	○		
	6月	第3章 微分法	・関数の積・商および合成関数・逆関数の微分について学習し、三角関数・対数関数・指数関数の微分ができるようにする。	○	○	○	
	7月	第4章 微分法的应用	・関数の増減や凹凸を調べたり、これらを利用して曲線の概形をかけるようにする。速度・加速度など物理的な性質を調べる。	○	○	○	
2 学 期	8月	第5章 積分法	・基本的な関数の不定積分・定積分を求める。また、置換積分法・部分積分法を導入し、重要な方法であることを認識する。	○	○		第2回
	9月	第6章 積分法的应用	・面積や体積の求め方を定積分を利用して導くことを理解する。	○	○		
	10月	(問題演習)	・分数関数・無理関数・逆関数・合成関数についても再確認する。	○	○	○	第3回
	11月	(問題演習)	・無限級数の和の求め方とその応用について理解する。また、関数の連続性についての定義を再確認する。	○	○	○	
	12月	(問題演習)	・様々な関数の微分の仕方を再確認する。 ・曲線の凹凸や変曲点を第2次導関数を用いて調べる方法を再確認し、様々な関数のグラフをかくことに適用できる能力を養う。 ・置換積分法・部分積分法を再確認する。 ・面積・体積の求め方を再確認し、積分法的应用を中心に演習を行う。	○	○	○	
3 学 期	1月	(問題演習)		○	○	○	
	2月						
	3月						

学習の方法	・1学期は教科書と問題集（サクシード）を用いて、基礎力を養います。数学Ⅱでの既習事項を再確認し、数学Ⅲへと発展させていきます。 ・2学期は問題集を活用しながら、基本問題から応用問題へと進み、入試対策への応用力を身に付けます。 ・年3回の定期考査や確認プリントなどを利用して、応用的な問題演習で論理的思考力を養うとともに、実力を身に付けます。
-------	--

評価の仕方	・定期考査に加え、提出物（週末課題、訂正ノート、演習ノートなど）、小テストの成績などを総合的に評価します。「知識・理解」「数学的な見方や考え方」などを考慮して総合的に評価します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	数学C	学年	第3 学年	類型	Ⅱ 型
単位数	1 単位	教科書	「数学C」 （数研出版）				
副教材	問題集「新課程 参考書「新課程	サクシード 数学Ⅲ＋C」 （数研出版） NEW ACTION LEGEND 数学C」 （東京書籍）					

学習目標	・複素数平面とベクトルの学習を通して、図形的考察における数学的な見方や考え方をさらに磨くとともに、身の回りのさまざまな自然科学の事象や問題を考察し処理することができる能力を伸ばす。 ・演習においては、基本的な問題を解くことにより重要事項を再確認し、応用的な問題演習で論理的思考力を養うとともに、実力を身に付ける。
------	--

評価規準	【知識・技能】 数学 C の内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識及び、事象を数学的に表現・処理する方法などの技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 数学 C の内容において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方を身に付けている。	【主体的に学習に取り組む態度】 数学 C の内容において、その考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。
------	--	--	--

		学 習 計 画 及 び 内 容	評価の観点			定期考査		
			①	②	③			
1 学 期	4 月	数学 C	第 3 章 複素数平面	・複素数を座標平面上で表し、代数的な処理と図形的な処理の関係を学ぶ。ド・モアブルの定理の活用法について学ぶ。	○	○	○	第 1 回
	5 月							
	6 月	第 4 章 式と曲線	・放物線・楕円・双曲線の図形的な性質を調べる。また、曲線の方程式の特徴と、曲線の図形的な特徴を対応させる。	○		○		
	7 月	(数学 C の演習) 平面上のベクトル	・ベクトルの概念および、既習のさまざまな平面図形の性質を、ベクトルを用いて表現する方法を再確認する。	○	○	○		
2 学 期	8 月	空間のベクトル	・空間座標を導入することにより、ベクトルの世界を拡張し、球面の方程式などを再確認する。	○	○	○	第 2 回	
	9 月							
	10 月							
	11 月	複素数平面	・複素数平面に関する問題の解法および様々な曲線の方程式に関する種々の問題について、その特徴や活用法を再確認する。	○	○	○		第 3 回
	12 月	式と曲線						
3 学 期	1 月	(問題演習)	・数学 C に関して、問題演習を通して、既習内容の定着を図るとともに、共通テスト・2 次試験に対応できる学力を養う。	○	○	○		
	2 月							
	3 月							

学習の方法	・学習の前半は、教科書と問題集（サクシード）を用いて、基礎力を養います。 ・学習の後半は、問題集も活用しながら、基本問題から応用問題へと進み、入試対策への応用力を身に付けます。 ・年 3 回の定期考査や確認プリントなどを利用して、応用的な問題演習で論理的思考力を養うとともに、実力を身に付けます。
-------	--

評価の仕方	・定期考査に加え、週末課題やノートの提出、小テストの成績などを総合的に評価します。 ・平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や参加姿勢に加え、解答の板書状況などを総合的に評価します。
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	数学探究Ⅰ	学年	第3学年	類型	Ⅰ型
単位数	3単位	教科書	「数学探究Ⅰ」（松山東高校数学科）				
副教材	問題集「入試必修問題集 精練 数学Ⅰ・Ⅱ・A・B+数学C（ベクトル）」（啓林館／河合塾） 参考書「NEW ACTION LEGEND 数学Ⅰ+A, 数学Ⅱ+B, 数学C（ベクトル）」（東京書籍）						

学習目標	・問題演習を通して、既習内容の定着を図るとともに、共通テスト・2次試験に対応できる学力を養う。 ・答案の書き方や用語の使い方に留意し、数学的なものの見方・考え方を身に付け、論理的な思考力を養う。
------	--

評価規準	【知識・技能】 数学 I II ABC の内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識及び、事象を数学的に表現・処理する方法などの技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 数学 I II ABC の内容において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方を身に付けている。	【主体的に学習に取り組む態度】 数学 I II ABC の内容において、その考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基いて判断しようとする。
------	--	--	---

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4 月	第 1 章 数と式	・集合と命題に関する基本的な概念を理解し、一次不等式を問題解決に活用する。	○	○	○	第 1 回
	5 月	第 2 章 2 次関数	・2 次関数について様々な有用性を再認識し、事象の考察に活用する。	○	○	○	
		第 3 章 図形と計量・図形の性質	・三角比の意味やその基本的な性質について再確認する。	○	○	○	
	6 月	第 4 章 データの分析・論理	・統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析する。	○	○	○	
		第 5 章 場合の数	・場合の数及び確率について理解し、事象を数学的に考察し処理する。	○	○	○	
	7 月	第 6 章 確率		○	○	○	
		第 7 章 数学と人間の活動	・整数の性質についての理解を深め、事象の考察に活用する。	○	○	○	
2 学 期	8 月	第 8 章 式と証明 複素数と方程式	・等式や不等式の証明について理解し、適切に論理を進める力を身に付ける。	○	○	○	第 2 回
	9 月	第 9 章 図形と方程式	・平面図形の諸性質や関係を、方程式や不等式を用いて数学的に処理する。	○	○	○	
	10 月	第 10 章 三角関数	・既習の三角比の内容をもとに、三角関数のグラフや諸性質を学び、加法定理や二倍角の公式などの利用方法を再確認する。	○	○	○	第 3 回
	11 月	第 11 章 指数関数と対数関数	・指数法則や対数を用いて、グラフの特徴や方程式・不等式の解ける力を身に付ける。	○	○	○	
	12 月	第 12 章 微分法と積分法	・導関数の増減から関数のグラフを描く方法を再確認する。不定積分や定積分の計算ができ、様々な図形の面積を求める方法を再確認する。	○	○	○	
		第 13 章 数列	・等差数列、等比数列の一般項や和の求め方、漸化式から一般項を求める方法や、数学的帰納法の原理を再確認する。	○	○	○	
3 学 期	1 月	第 14 章 ベクトル	・ベクトルの概念および、既習のさまざまな平面図形、空間図形の性質を、ベクトルを用いて表現する方法を再確認する。	○	○	○	
	2 月 3 月						

学習の方法	・演習中心の授業であるため、家庭での学習が重要になります。予習に力を注ぎ、理解できなかった問題は教科書や参考書で調べ、自力で解決しようとする姿勢が必要です。また、答案の書き方や用語の使い方も配慮する必要があります。自分の考え方が相手に伝わるような答案を心がけましょう。 ・授業中は説明をよく聞き、理解できなかった問題の解法や、自分の解法と違った方法についても理解するよう努めましょう。授業を受けても分からなかった場合は先生や友人に聞くことも大切です。
-------	--

評価の仕方	・定期考査に加え、週末課題やノートの提出などを総合的に評価します。 ・予習の状況や授業中の態度なども評価の対象となります。数学的なものの見方や考え方が身に付いているか、数学に興味・関心を持っているかなど、総合的に評価します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	数学探究Ⅱ	学年	第3学年	類型	I 型
単位数	2 単位	教科書	「数学探究Ⅱ」（松山東高校数学科）				
副教材	問題集「入試必修問題集 精練 数学Ⅰ・Ⅱ・A・B＋数学C（ベクトル）」（啓林館／河合塾） 参考書「NEW ACTION LEGEND 数学Ⅰ＋A，数学Ⅱ＋B，数学C（ベクトル）」（東京書籍）						

学習目標	・問題演習を通して、既習内容の定着を図るとともに、共通テスト・2次試験に対応できる学力を養う。 ・答案の書き方や用語の使い方に留意し、数学的なものの見方・考え方を身に付け、論理的な思考力を養う。
------	--

評価規準	【知識・技能】 数学ⅠⅡABCの内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識及び、事象を数学的に表現・処理する方法などの技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 数学ⅠⅡABCの内容において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方を身に付けている。	【主体的に学習に取り組む態度】 数学ⅠⅡABCの内容において、その考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基いて判断しようとする。
------	---	---	--

学 習 計 画 及 び 内 容				評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	第1章 数と式	・集合と命題に関する基本的な概念を理解し、一次不等式を問題解決に活用する。	○	○	○	第1回
	5月	第2章 2次関数	・2次関数について様々な有用性を再認識し、事象の考察に活用する。	○	○	○	
		第3章 図形と計量・図形の性質	・三角比の意味やその基本的な性質について再確認する。	○	○	○	
	6月	第4章 データの分析・論理	・統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析する。	○	○	○	
		第5章 場合の数	・場合の数及び確率について理解し、事象を数学的に考察し処理する。	○	○	○	
	7月	第6章 確率		○	○	○	
		第7章 数学と人間の活動	・整数の性質についての理解を深め、事象の考察に活用する。	○	○	○	
2 学 期	8月	第8章 式と証明 複素数と方程式	・等式や不等式の証明について理解し、適切に論理を進める力を身に付ける。	○	○	○	第2回
	9月	第9章 図形と方程式	・平面図形の諸性質や関係を、方程式や不等式を用いて数学的に処理する。	○	○	○	
	10月	第10章 三角関数	・既習の三角比の内容をもとに、三角関数のグラフや諸性質を学び、加法定理や二倍角の公式などの利用方法を再確認する。	○	○	○	
	11月	第11章 指数関数と対数関数	・指数法則や対数を用いて、グラフの特徴や方程式・不等式の解ける力を身に付ける。	○	○	○	第3回
	12月	第12章 微分法と積分法	・導関数の増減から関数のグラフを描く方法を再確認する。不定積分や定積分の計算ができ、様々な図形の面積を求める方法を再確認する。	○	○	○	
		第13章 数列	・等差数列、等比数列の一般項や和の求め方、漸化式から一般項を求める方法や、数学的帰納法の原理を再確認する。	○	○	○	
3 学 期	1月	第14章 ベクトル	・ベクトルの概念および、既習のさまざまな平面図形、空間図形の性質を、ベクトルを用いて表現する方法を再確認する。	○	○	○	
	2月 3月						

学習の方法	・演習中心の授業であるため、家庭での学習が重要になります。予習に力を注ぎ、理解できなかった問題は教科書や参考書で調べ、自力で解決しようとする姿勢が必要です。また、答案の書き方や用語の使い方も配慮する必要があります。自分の考え方が相手に伝わるような答案を心がけましょう。 ・授業中は説明をよく聞き、理解できなかった問題の解法や、自分の解法と違った方法についても理解するよう努めましょう。授業を受けても分からなかった場合は先生や友人に聞くことも大切です。
-------	--

評価の仕方	・定期考査に加え、週末課題やノートの提出などを総合的に評価します。 ・予習の状況や授業中の態度なども評価の対象となります。数学的なものの見方や考え方が身に付いているか、数学に興味・関心を持っているかなど、総合的に評価します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	数学探究Ⅲ	学年	第3学年	類型	Ⅱ 型
単位数	2 単位	教科書	「数学探究Ⅲ」（松山東高校数学科）				
副教材	問題集「入試対策編 NEW GLOBAL TOP 数学Ⅰ＋A＋Ⅱ＋B＋C」（東京書籍） 参考書「NEW ACTION LEGEND 数学Ⅰ＋A、数学Ⅱ＋B、数学C」（東京書籍）						

学習目標	・問題演習を通して、既習内容の定着を図るとともに、共通テスト・2次試験に対応できる学力を養う。 ・答案の書き方や用語の使い方に留意し、数学的なものの見方・考え方を身に付け、論理的な思考力を養う。
------	--

評価規準	【知識・技能】 数学ⅠⅡABCの内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識及び、事象を数学的に表現・処理する方法などの技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 数学ⅠⅡABCの内容において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方を身に付けている。	【主体的に学習に取り組む態度】 数学ⅠⅡABCの内容において、その考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基いて判断しようとする。
------	---	---	--

学 習 計 画 及 び 内 容				評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	第1章 数と式	・集合と命題に関する基本的な概念を理解し、一次不等式を問題解決に活用する。	○	○	○	第1回
	5月	第2章 2次関数	・2次関数について様々な有用性を再認識し、事象の考察に活用する。	○	○	○	
		第3章 図形と計量・図形の性質	・三角比の意味やその基本的な性質について再確認する。	○	○	○	
	6月	第4章 データの分析・論理	・統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析する。	○	○	○	
		第5章 場合の数	・場合の数及び確率について理解し、事象を数学的に考察し処理する。	○	○	○	
	7月	第6章 確率		○	○	○	
		第7章 数学と人間の活動	・整数の性質についての理解を深め、事象の考察に活用する。	○	○	○	
2 学 期	8月	第8章 整式の除法・不等式の証明	・等式や不等式の証明について理解し、適切に論理を進める力を身に付ける。	○	○	○	第2回
	9月	第9章 図形と方程式	・平面図形の諸性質や関係を、方程式や不等式を用いて数学的に処理する。	○	○	○	
	10月	第10章 三角関数	・既習の三角比の内容をもとに、三角関数のグラフや諸性質を学び、加法定理や二倍角の公式などの利用方法を再確認する。	○	○	○	
	11月	第11章 指数関数と対数関数	・指数法則や対数を用いて、グラフの特徴や方程式・不等式の解ける力を身に付ける。	○	○	○	第3回
	12月	第12章 微分と積分	・導関数の増減から関数のグラフを描く方法を再確認する。不定積分や定積分の計算ができ、様々な図形の面積を求める方法を再確認する。	○	○	○	
		第13章 数列	・等差数列、等比数列の一般項や和の求め方、漸化式から一般項を求める方法や、数学的帰納法の原理を再確認する。	○	○	○	
3 学 期	1月	第14章 ベクトル	・ベクトルの概念および、既習のさまざまな平面図形、空間図形の性質を、ベクトルを用いて表現する方法を再確認する。	○	○	○	
	2月 3月						

学習の方法	・演習中心の授業であるため、家庭での学習が重要になります。予習に力を注ぎ、理解できなかった問題は教科書や参考書で調べ、自力で解決しようとする姿勢が必要です。また、答案の書き方や用語の使い方も配慮する必要があります。自分の考え方が相手に伝わるような答案を心がけましょう。 ・授業中は説明をよく聞き、理解できなかった問題の解法や、自分の解法と違った方法についても理解するよう努めましょう。授業を受けても分からなかった場合は先生や友人に聞くことも大切です。
-------	--

評価の仕方	・定期考査に加え、週末課題やノートの提出などを総合的に評価します。 ・予習の状況や授業中の態度なども評価の対象となります。数学的なものの見方や考え方が身に付いているか、数学に興味・関心を持っているかなど、総合的に評価します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

履修規定（必履修・選択）

教 科	理科	科 目	物理	学年	第 3 学年	類 型	Ⅱ 型 (含GLコース)
単位数	5	教科書	物理（数研出版）				
副教材	セミナー 物理基礎＋物理（第一学習社）						

学習目標	物理基礎との関連を図りながら、さらに進んだ物理学的方法で、自然の事物・現象を取り扱い、観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育むとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。
------	---

評価規準	【知識・技能】 日常生活や社会との関連を図りながら、物理的な事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 物理的な事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	【主体的に学習に取り組む態度】 物理的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
------	---	--	---

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	第1編 様々な運動 第1章 平面内の運動 第2章 剛体	・平面内の運動とエネルギーについての基礎的な見方や考え方に基づいて、力と運動に関する概念や原理・法則を学び、それらを活用できるようにする。 ・水面波、音、光など波動現象を観察・実験し、それらを日常生活や社会と関連づけて学ぶ。	○		○	第 1 回
	5月	第3章 運動量の保存 第4章 円運動と万有引力			○		
	6月	第2編 熱と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化		○		○	
	7月	第3編 波 第1章 波の伝わり方 第2章 音の伝わり方		○		○	
	7月	第3章 光			○	○	
2 学 期	8月	第4編 電気と磁気 第1章 電場	・物理基礎で静電気や電流、電磁波を学んだ。電気や磁気の性質をさらに深く掘り下げて学ぶ。 ・電子、原子および原子核に関する現象を観察、実験などを通して探究し、原子についての基本的な概念や原理・法則を学ぶ。		○	○	第 2 回
	9月	第2章 電流			○	○	
	10月	第3章 電流と磁場 第4章 電磁誘導と電磁波		○	○		
	11月	第5編 原子 第1章 電子と光		○	○	○	第 3 回
	12月	第2章 原子と原子核 終章 物理学が築く未来					
3 学 期	1月	学習のまとめ	・問題解決学習を行い、物理の知識を定着させる。	○		○	
	2月						
	3月						

学習の方法	・暗記のみにとどまることなく、物理にとってその現象にどのような意義や目的があるのかなどを常に考えながら、授業に真剣に取り組むこと。 ・興味の高まった分野、理解の不十分な分野を中心に、副教材を活用して理解を進めること。 ・観察・実験時には予習を行い目的と内容を十分に理解した上で主体的に取り組むこと。実験後は、結果の整理、考察を行い、レポートを提出すること。
-------	--

評価の仕方	・3回の定期考査と観察・実験の取組状況及びレポートの内容、課題の提出状況等を、評価の観点に従って、総合的に判断し、評価する。
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	化学	学年	第 3 学年	類 型	Ⅱ 型
単位数	4	教科書	改訂版 化学（数研出版）				
副教材	ニューステージ新化学図表（浜島書店） セミナー化学基礎＋化学（第一学習社）						

学習目標	1 化学的なものの見方や考え方を身に付ける。 2 生徒自身が課題を見つけ、主体的・意欲的に実験、観察を行うことで科学的に探究する能力を身に付ける。 3 化学的な事物・現象に関する基礎的な知識および基本的な概念や原理・法則を深く系統的に理解させる。
------	---

評価規準	【知識・技能】 物質に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 物質に関する事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	【主体的に学習に取り組む態度】 物質に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
------	--	--	---

学 習 計 画 及 び 内 容				評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	第4編 第1章 有機化合物の分類と分析 第2章 脂肪族化合物	・有機化合物の特徴・分類や、未知の有機化合物の分子構造を決定する手法を学ぶ。 ・脂肪族炭化水素の性質を理解する。	○	○	○	第1回
	5月			○	○	○	
	6月	第3章 アルコールと関連化合物	・アルコールとその構造異性体であるエーテルやアルコールの酸化生成物であるアルデヒド、カルボン酸などの化合物について学習する。	○	○	○	
	7月						
2 学 期	8月	第4章 芳香族化合物	・第2、3章での学習内容をもとに、医薬品や染料など身近なところで広く利用される芳香族化合物の種類や性質を学習する。	○	○	○	第2回
	9月			○	○	○	
	10月	第5編 天然有機化合物 第1章 天然有機化合物 第2章 天然高分子化合物	・糖やアミノ酸の性質を学習する。 ・分子量の大きな多糖類、タンパク質、核酸などの高分子化合物について学習する。	○	○	○	第3回
	11月			○	○	○	
3 学 期	12月	第6編 合成高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 第2章 合成高分子化合物	・高分子化合物の結合の種類や構造、融点、分子量、溶解性など一般的な性質について学ぶ。 ・合成高分子化合物を繊維、樹脂、ゴムに分けてそれぞれの構造や重合のしくみについて学習する。	○	○	○	
	1月						
	2月						
	3月						

学習の方法	・毎日の授業を大切にし、授業を通して科学的な見方や考え方ができるように自分の学習目標を設定して努力することが大切です。化学式や化学反応式を単に暗記するのではなく、なぜそうなるのか理由を考え、系統立てて学習していくことが大切です。 ・科学的に探究する力や態度を育てるためには、実験や観察を積極的に行うことが大切です。短時間で構いませんから予習を確実にし、自分が何をするのか理解してから臨みましょう。
-------	---

評価の仕方	定期考査に加え、授業中に行う小テストや提出物（実験ノートなど）を総合的に評価します。また、平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や実験への参加姿勢も含めて総合的に評価します。
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	生物	学年	第 3 学年	類型	Ⅱ 型
単位数	5 単位	教科書	生物 （数研出版）				
副教材	ニューステージ新生物図表（浜島書店） ニューグローバル生物基礎＋生物（東京書籍）						

学習目標	- 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 - 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 - 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
------	---

評価規準	【知識・技能】 生物学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 生物や生物現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	【主体的に学習に取り組む態度】 生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
------	--	---	--

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	第1編 生物の進化	・生物の進化の過程とそのしくみ及び生物の系統について、観察、実験などを通して探究し、生物界の多様性と系統を理解させ、進化についての考え方を身に付ける。 ・生命現象を支える物質の働きについて観察、実験などを通して探究し、タンパク質や核酸などの物質の働きを理解させ、生命現象を分子レベルでとらえる。 生物の生殖や発生について観察、実験などを通して探究し、動植物の配偶子形成から形態形成までを理解する。		◎	○	第1回
	5月	第1章 生物の進化					
	6月	第2編 生命現象と物質 第2章 細胞と分子 第3章 代謝		◎		○	
	7月	第3編 遺伝情報の発現と発生 第4章 遺伝情報の発現と発生		○	◎		
2 学 期	8月	第4編 生物の環境応答	・環境の変化に生物が反応していることについて、生物個体が外界の変化を感知し、反応するしくみを理解する。 ・生物の個体群と群集及び生態系について観察、実験などを通して探究し、それらの構造や変化のしくみを理解する。 ・生態系のバランスや生物多様性の重要性について認識する。	○	◎		第2回
	9月	第5章 動物の反応と行動					
	10月	第6章 植物の環境応答		◎	○		第3回
	11月	第5編 生態と環境			◎	○	
3 学 期	12月	第7章 生物群集と生態系					
	1月	学習のまとめ	・問題解決学習を行い、生物の知識を定着させる。	○	◎	○	
	2月						
	3月						

学習の方法	- 生物現象を考える中で、化学の知識を活用しながら探究的な学習を行うこと。 - 遺伝子の分野は日進月歩であるので、新しい知識を積極的に吸収し、副教材や文献を活用して理解を進めること。 - 観察・実験時には予習を行い目的と内容を十分に理解した上で主体的に取り組むこと。実験後は、結果の整理、考察を行い、レポートを提出すること。
-------	--

評価の仕方	・3回の定期考査成績に加えて、観察・実験の取組状況及びレポートの内容、課題の提出状況等を、評価の観点に従って、総合的に判断し、評価する。
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	生物探究	学年	第3学年	類型	I 型
単位数	2 単位	教科書	生物基礎・生物 実験ノート2025（愛媛県高等学校教育研究会 理科部会 編）				
副教材	生物基礎・生物 実験ノート2025 （愛媛県高等学校教育研究会 理科部会 編）						

学習目標	・実習・演習を通して、日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
------	--

評価規準	【知識・技能】 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	【主体的に学習に取り組む態度】 生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
------	--	--	--

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	はじめに	・生物基礎の学習内容を理解する。 ・顕微鏡操作を習得する。	◎	○		第1回
	5月	1 生物の特徴 (1) 生物の特徴	・生物の機能上、構造上の単位である細胞について、観察・実験を通して理解を深める。 生体とATPの関係や呼吸、光合成のしくみを理解する。	◎		○	
	6月	(2) 遺伝子とその働き	・DNAの構造や遺伝情報のしくみ、タンパク質合成過程について理解を深める。	◎		○	
	7月	2 ヒトのからだの調節 (1) 神経系と内分泌系による調節	・動物の恒常性維持のはたらきとして、血液循環、生体防御、間脳による調節のしくみについて理解を深める。		◎	○	
2 学 期	8月	(2) 免疫	・ヒトの体内環境について理解を深め、健康への意識を高める。		◎	○	第2回
	9月						
	10月						第3回
	11月	3 生物の多様性と生態系 (1) 植生と遷移	・植物植生の遷移について環境の要因と関連付けて理解を深める。 ・バイオームについて理解を深め、自然保護の意識を高める。	◎	○		
3 学 期	12月						
	1月	(2) 生態系とその保全	・食物連鎖や炭素・窒素の循環を通して、生態系についての理解を深める。	◎	○		
	2月						
	3月						

学習の方法	・暗記のみにとどまることなく、生物にとってその生物現象にどのような意義や目的があるのかなどを常に考えながら、授業に真剣に取り組むこと。 ・興味の高まった分野、理解の不十分な分野を中心に、副教材を活用して理解を進めること。 ・観察・実験時には予習を行い目的と内容を十分に理解した上で主体的に取り組むこと。実験後は、結果の整理、考察を行い、レポートを提出すること。
-------	--

評価の仕方	・3回の定期考査成績に加えて、観察・実験の取組状況及びレポートの内容、課題の提出状況等を、評価の観点に従って、総合的に判断し、評価する。
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	地学探究	学年	第3 学年	類型	I 型
単位数	2 単位	教科書	地学基礎実験ノート2026（愛媛県高等学校教育研究会 理科部会）				
副教材	スクエア 最新図説地学（第一学習社）						

学習目標	・地学や地学現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、地学的に探究する能力と態度を育むとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。 ・地学基礎の学習を通して、地学の基礎基本の定着を目標とする。
------	--

評価規準	【知識・技能】 惑星としての地球についての観察・実習などを通して、地球の形と大きさ、地球内部の層構造、プレートの運動について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実習などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 惑星としての地球について、問題を見いだし見通しをもって観察・実習などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	【主体的に学習に取り組む態度】 惑星としての地球について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
------	---	--	--

	学 習 計 画 及 び 内 容	評価の観点			定期考査
		①	②	③	
1 学 期	4月 第1編 活動する地球				第1回
	第1章 地球の構造	○		◎	
	5月 第2章 プレートの運動	○	◎		
	第3章 地震		○	◎	
	6月 第4章 火山	◎	○		
	7月 第2編 移り変わる地球	○	◎		
2 学 期	第1章 地層の形成				第2回
	8月 第2章 古生物の変遷と地球環境	○	◎		
	9月 第3編 大気と海洋	◎		○	
	10月 第1章 地球の熱収支	◎		○	
	第2章 大気と海水の運動	◎		○	
	11月 第4編 地球の環境		◎	○	
3 学 期	12月 第1章 地球の環境と日本の自然環境		◎	○	第3回
	第5編 太陽系と地球		○	◎	
	第1章 太陽系と太陽				
	1月 第2章 宇宙の誕生		◎	○	
	2月				
	3月				

学習の方法	・暗記のみにとどまることなく、地学にとってその現象にどのような意義や目的があるのかなどを常に考えながら、授業に真剣に取り組むこと。 ・興味の高まった分野、理解の不十分な分野を中心に、副教材を活用して理解を進めること。 ・観察・実験時には予習を行い目的と内容を十分に理解した上で主体的に取り組むこと。実験後は、結果の整理、考察を行い、レポートを提出すること。
-------	--

評価の仕方	・3回の定期考査成績に加えて、観察・実験の取組状況及びレポートの内容、課題の提出状況等を、評価の観点に従って、総合的に判断し、評価する。
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	保健体育	科 目	体育	学年	第 3 学年	類 型	共 通
単位数	2 単位	教科書	現代高等保健体育 改訂版（大修館書店）				
副教材	図説 現代高等保健 改訂版（大修館書店）						

学習目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。
------	--

評価規準	【知識・技能】 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。	【主体的に学習に取り組む態度】 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、ひとり一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養おうとしている。
------	--	---	--

				学 習 計 画 及 び 内 容			評価の観点			定期考査
							①	②	③	
1 学 期	4月	体づくり運動		・東高体操や集団走を正確に身に付ける。 ・体ほぐしの運動や体力を高める運動を通して、その方法を学習する。 ・テニス、ソフトボール、バレーボール、バドミントンの中から選択し活動する。				○	○	
	5月	球技選択Ⅰ			○			○	○	
	6月	体育理論		・安全に留意する態度を養うとともに自らの体力に応じて学習する。 ・各ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方について理解する。	○	○			○	
	7月	体づくり運動・ダンス		・運動会集団演技の練習を行う中で、体力を高め、集団の中での協調性を養う。	○				○	
2 学 期	8月	体づくり運動・ダンス		・運動会集団演技の練習を行う中で、体力を高め、集団の中での協調性を養う。				○	○	
	9月									
	10月	体づくり運動・持久走		・持久走を行うことにより、体力を高め、自己の可能性に挑戦する楽しさを味わう。				○	○	
	11月	球技選択Ⅱ								
3 学 期	12月	体育理論		・国や自治体が行っているスポーツ推進の施策について学習する。	○	○				
	1月	球技選択Ⅱ		・テニス、サッカー、バスケットボール、バドミントンの中から選択し活動する。	○				○	
	2月	体育理論		・スポーツで「未来」を創るための課題について学習する。	○				○	

学習の方法	・本校独自の「東高体操」や「集団走」などみんなで一生懸命に授業に取り組むことを大切に授業を行っていきます。東高生として、授業へ取り組む真面目な姿勢が大切です。 ・運動技能の基礎基本を確実に学習し、仲間とともに体を動かす楽しさと喜びを味わい、自らの体力に応じて、自分の可能性に挑戦していきます。
-------	---

評価の仕方	各種目や内容について、運動技能だけでなく、授業に対する意欲や運動やスポーツへの関心、一生懸命に頑張る態度など総合的に評価します。
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

履修規定（必修・選択）

教 科	芸術	科 目	音楽探究	学年	第 3 学年	類型	I 型
単位数	3	教科書	名曲で学ぶ音大入試の楽典（音楽之友社）				
副教材							

学習目標	・名曲を題材に、楽曲の構造や構成を学びながら音楽への探究心を高め、楽典の理解を深めるとともに、音楽を理論的に探究する能力と態度を育む。 ・芸術文化の発展を担う優れた音楽の表現者や、造詣の深い愛好者として必要な資質を育てる。
------	--

評価規準	【知識・技能】 音楽史や楽典等に関する豊かな知識をもち、楽曲分析や、音楽史研究により、より良く表現することにつなげて豊かに活動している。	【思考・判断・表現】 楽曲にふさわしい表現や解釈を、資料の精読や鑑賞を通して探り、時代や様式、作曲の背景などと関連づけて課題に向き合っている。	【主体的に学習に取り組む態度】 作品に向き合い、様式美や精神性を感じたり表現したりするために、自らの課題を設定して学習の進め方を工夫している。
------	--	---	---

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	音部記号・音階 音程 移調楽器 オーケストラの楽器 コードネーム 三和音 近親調・転調	・全調の調号を理解し、調性の持つ性格に基づいて表現しようと探究する。 ・移調楽器の種類や音色を聴き分け、作曲家の管弦楽法について考えることができる。 ・三和音を理解して、コードネームを読み取ったり表記したりすることができる。 ・転調の効果を理解して、演奏表現や作曲に生かそうとする。				
	5月			○		○	
	6月			○		○	
	7月				○	○	
2 学 期	8月	七の和音 調判定 借用和音 非和声音 創作 総合問題	・楽曲分析に基づきつつ、作品の精神性を理解して、豊かで創造的な表現を目指す。 ・楽典の知識を生かしつつ、創造的な表現につながる楽曲分析を試みようとする。 ・豊かな音楽表現は、すべて楽曲分析に基づくことを理解し、楽典の知識を高めようとする。		○	○	
	9月				○	○	
	10月			○	○		
	11月			○	○	○	
	12月						
3 学 期	1月	総合問題 研究演奏	・楽曲分析に基づきつつ、作品の精神性を理解して、豊かで創造的な表現を目指す。	○		○	
	2月						
	3月						

学習の方法	・アクティブな探究の姿勢で、楽典など音楽の基礎的事項から音楽大学入試レベルの問題に取り組み、演奏に役立てるとともに、鑑賞に必要な音楽美学の基礎知識を身に付ける。 ・「音楽表現」の内容と深い関わりを持ちながら、楽曲分析の基礎や発展的課題に取り組む。
-------	--

評価の仕方	・音楽大学入試レベルの総合問題、ソルフェージュ課題、口頭試問などで総合的に評価します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

履修規定（必修・選択）

教 科	芸術	科 目	音楽表現	学年	第 3 学年	類型	I 型
単位数	2	教科書	演奏のための楽曲分析法（音楽之友社）				
副教材							

学習目標	・楽曲分析をととして音楽の構造や構成を学びながら楽曲の理解を深め、表現力を高めるに、音楽を理論的に理解し表現する能力と態度を育む。 ・芸術文化の発展を担う優れた音楽の表現者や、造詣の深い愛好者として必要な資質を育てる。
------	---

評価規準	【知識・技能】 音楽史や楽典等に関する豊かな知識をもち、楽曲分析や、音楽史研究により、より良く表現することにつなげて豊かに活動している。	【思考・判断・表現】 楽曲にふさわしい表現や解釈を、資料の精読や鑑賞を通して探り、時代や様式、作曲の背景などと関連づけて課題に向き合っている。	【主体的に学習に取り組む態度】 作品に向き合い、様式美や精神性を感じたり表現したりするために、自らの課題を設定して学習の進め方を工夫している。
------	--	---	---

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	第1章 素材と要素	・テンポや高低、旋律線やアディクションを理解し、分析を表現に生かそうとする。				
	5月	楽曲研究演奏①		○		○	
	6月	第2章 アクセント 楽曲研究演奏②	・強勢的、表情的アクセントの様々な種類を見分けて、楽曲分析を生かした表現に高める。 ・グルーピングの重要性を理解し、技術と表現の融合を図って表現しようとする。	○		○	
	7月	楽曲研究演奏③ 第3章 旋律の分析			○	○	
2 学 期	8月	楽曲研究演奏④	・多くの作曲家に見られる提唱と応答を理解し、場面にふさわしい効果的な強弱を求める。		○	○	
	9月	第4章 提唱と応答			○	○	
	10月	楽曲研究演奏⑤	・和音や旋律から緊張を開放を理解して、自然で豊かな表現を試みる。 ・作曲家の作品を取り上げ、楽曲分析の知識を生かして表現しようとする。	○	○		
	11月	第5章 アナクルズとデジナンス 楽曲研究演奏⑥		○	○	○	
	12月	第6章 総合分析 楽曲研究演奏⑦					
3 学 期	1月	楽曲研究演奏⑧ 総合分析	・作曲家の作品を取り上げ、楽曲分析の知識を生かして表現しようとする。	○		○	
	2月						
	3月						

学習の方法	・アクティブな探究の姿勢を持ち、楽曲分析を基にした音楽表現を試行して実技課題に取り組み、楽曲の求める演奏技術を身に付ける。 ・「音楽探究」の内容と深い関わりを持ちながら、ソルフェージュ力や楽典の知識を生かした演奏に取り組む。
-------	--

評価の仕方	・音楽大学入試レベルの演奏課題、口頭試問などで総合的に評価します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

履修規定（必修・選択）

教 科	芸術	科 目	美術探究	学年	第3学年	類型	I 型
単位数	3 単位	教科書	基礎から応用までわかるデッサンの教科書（池田書店）				
副教材							

学習目標	表現活動の基盤となるデッサンの学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を育成する。 造形表現を追求する態度を養う。
------	---

評価規準	【知識・技能】 表現材料の特性について理解を深めるとともに、対象を深く観察して表現を工夫しながら的確に描写している。	【思考・判断・表現】 対象のイメージや空間を把握するための表現を創意工夫している。	【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に造形表現を追求している。
------	---	--	-------------------------------------

				学 習 計 画 及 び 内 容			評価の観点			定期考査
							①	②	③	
1 学 期	4月	1	静物デッサン①	- デッサンに必要な道具を確認する。 - 基本の形をおさえ、応用する。 「陰」と「影」を理解し、立体感を表す。 - 質の違う様々なモチーフに挑戦する。 - 石膏像を描くためのポイントをおさえ、感覚的、論理的な理解を持ち、特徴を捉えながら表現する。						
	5月		- デッサンを始める前に - 形のとり方 - 立体感・質感の出し方				○		○	
	6月	2	石膏デッサン							
	7月		- 面取り像を描く - 首像を描く - 胸像を描く				○	○	○	
2 学 期	8月	3	静物デッサン②	- 単体・複数モチーフの構図を理解し、表現につなげる。 - 構造と光の当たり方を関連させ、細部の表現まで追求する。 - 人物の持つ空気感を意識し、表現する。						
	9月		- 構図について - ものの組み合わせ方				○		○	
	10月	4	人物を描く							
	11月		- からだの構造 - 手を描く - 自画像				○	○	○	
3 学 期	12月							○	○	
	1月	5	構成デッサン	出題の意図を読み取り、完成度の高い表現を追求する。			○	○	○	
	2月							○		
	3月									

学習の方法	主に美術系大学への進学を希望している生徒が選択します。志望する大学の情報を集め、専攻科別の特性を理解して学習に取り組みましょう。
-------	--

評価の仕方	完成までの過程や自己分析等を含め、作品を総合的に評価します。
-------	--------------------------------

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

履修規定（必修・選択）

教 科	芸術	科 目	美術表現	学年	第 3 学年	類型	I 型
単位数	2 単位	教科書	造形基礎（武蔵野美術大学出版局）				
副教材							

学習目標	美術に関する学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、専門的な美術に関する資質・能力を育成する。 美術表現の可能性を追求する態度を養う。
------	--

評価規準	【知識・技能】 表現形式の特性について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 造形的な見方・考え方を働かせ、創造的な表現の構想を練っている。	【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に美術表現の可能性を追求している。
------	--	---	---

		学 習 計 画 及 び 内 容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	造形基礎Ⅰ	・造形芸術の表現と伝達について考える。 ・人間存在としての身体について考える。 ・ドローイングの発生や意味を理解し、様々な主題や素材でドローイングを行う。 ・主体的に見ることや、描くことの意味を探り、様々な主題や素材で描写を行う。	○		○	
	5月	表現と伝達 手と身体 ドローイング			○	○	
	6月	造形基礎Ⅱ 観察と描写 ・人物			○		
	7月	・石膏像		○	○		
2 学 期	8月	・自画像	・実験を繰り返し、体験として独自に色彩の豊かな表現を蓄積する。 ・立体や空間を造形美術の概念として再考して、表現に生かす。		○	○	
	9月						
	10月	造形基礎Ⅲ 感情と色彩		○	○		
	11月	造形基礎Ⅳ 立体から空間へ			○	○	
3 学 期	1月	鑑賞	・造形的なよさや美しさ、目的や機能との調和の取れた美しさなどを感じ取り、自己の表現に生かす。	○	○	○	
	2月						
	3月						

学習の方法	「美術探究」同様、主に美術系大学への進学を希望している生徒が選択します。志望する大学の情報を集め、制作と関連させながら学習しましょう。また、入試問題のみに偏らず、大学進学後の創作活動を見据えた制作にも挑戦しましょう。 少人数の講座であるため、教室を広く使った立体作品やコンピューターグラフィック作品、映像作品の制作も可能です。
-------	--

評価の仕方	完成までの過程や自己分析等を含め、作品を総合的に評価します。
-------	--------------------------------

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

履修規定（必修・選択）

教 科	芸 術	科 目	書道探究	学年	第 3 学年	類型	I 型
単位数	3 単位	教科書	決定版 日本書道史（芸術新聞社）				
副教材							

学習目標	書道に関する専門的な学習を通して、感性や創造的な表現と鑑賞の能力を高めるとともに、書道文化の発展と創造に寄与する意欲と態度を養う。 文字造形の基本となる諸要素についての感覚を養い、創造的な構想と構成の能力を育てる。
------	--

評価規準	【知識・技能】 中国書道史・日本書道史に関する知識を持ち、古典の特徴を掴んで理解して表現している。	【思考・判断・表現】 素材と表現の調和を図り、関係性に応じた豊かな表現活動を行っている。	【主体的に学習に取り組む態度】 総合的な観点を持って表現活動や鑑賞に取り組むことができる。
------	--	---	--

学 習 計 画 及 び 内 容				評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	1 漢字の書	・臨書について ・創作について ・条幅作品制作 ・章法について ・作品鑑賞	○			単元ごとに課題作品を評価します。
	5月						
	6月				○	○	
	7月						
2 学 期	8月	2 仮名の書	・臨書について ・リズムと呼吸 ・作品鑑賞 ・漢字と仮名の調和について ・墨の濃淡、潤滑、墨継ぎについて ・動勢、アンバランスによる感興について	○			単元ごとに課題作品を評価します。
	9月				○		
	10月	3 漢字仮名交じりの書		○			
	11月			○			
	12月	4 実用の書	・細字について ・実用的な書の書き方と形式について		○		
3 学 期	1月		・表具について			○	単元ごとに課題作品を評価します。
	2月	5 表装		○	○		
	3月						

学習の方法	実技中心の授業です。特徴のある古典を精選しているので、計画的に臨書学習を進めます。創作は倣書から始めます。創作活動を豊かに展開するために、自然の美を感じる生活を心がけてください。そしてその美しさを作品に表現できる喜びや楽しさを学びましょう。書は心を表す芸術です。
-------	---

評価の仕方	定期考査は実施しません。作品点と平常の取り組み（提出物・準備物・受講の様子・意欲等）を総合的に評価します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

履修規定（必修・選択）

教 科	芸 術	科 目	書道表現	学年	第 3 学年	類型	I 型
単位数	2 単位	教科書	墨心（教育出版）				
副教材							

学習目標	書道に関する専門的な学習を通して、感性や創造的な表現と鑑賞の能力を高めるとともに、書道文化の発展と創造に寄与する意欲と態度を養う。 文字造形の基本となる諸要素についての感覚を養い、創造的な構想と構成の能力を育てる。
------	--

評価規準	【知識・技能】 中国書道史・日本書道史に関する知識を持ち、古典の特徴を掴んで理解して表現している。	【思考・判断・表現】 素材と表現の調和を図り、関係性に応じた豊かな表現活動を行っている。	【主体的に学習に取り組む態度】 総合的な観点を持って表現活動や鑑賞に取り組むことができる。
------	--	---	--

				学 習 計 画 及 び 内 容			評価の観点			定期考査
							①	②	③	
1 学 期	4月	1	漢字の書	・臨書について ・創作について ・用具用材について ・素材の選定 ・全体構成の工夫 ・現代の書作品について ・制作作品の発表 ・様々な文字表現					○	単元ごとに課題作品を評価します。
	5月							○		
	6月									
	7月						○		○	
2 学 期	8月	2	仮名の書	・臨書について ・創作について ・用具用材について ・素材の選定 ・小字と大字の仮名作品 ・素材の選定 ・構想の吟味 ・自由な表現					○	単元ごとに課題作品を評価します。
	9月							○		
	10月									
	11月						○		○	
3 学 期	12月									
	1月	3	漢字仮名交じりの書	・漢字を主とした表現 ・仮名を主とした表現 ・用具用材の選定 ・墨の濃淡・潤滑 ・墨継ぎ ・表具について			○			単元ごとに課題作品を評価します。
	2月							○	○	
	3月						○			
		4	表装							

学習の方法	実技中心の授業です。特徴のある古典を精選しているので、計画的に臨書学習を進めます。創作は倣書から始めます。創作活動を豊かに展開するために、自然の美を感じる生活を心がけてください。そしてその美しさを作品に表現できる喜びや楽しさを学びましょう。書は心を表す芸術です。
-------	---

評価の仕方	定期考査は実施しません。作品点と平常の取り組み（提出物・準備物・受講の様子・意欲等）を総合的に評価します。
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	外国語	科 目	英語コミュニケーションⅢ	学年	第三学年	類型	共通
単位数	4 単位	教科書	CREATIVE English Communication Ⅲ				
副教材	必携英単語LEAP（数研出版）						

学習目標	・聞いたたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめることができる。 ・聞いたたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、発表することができる。 ・聞いたたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、ある程度まとまりのある文章を書くことができる。 ・事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどの概要をとらえることができる。 ・説明、評論、物語、随筆などを速読して、概要をとらえることができる。
------	---

評価規準	【知識・技能】 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を身に付けている。	【主体的に学習に取り組む態度】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。
------	---	---	--

学 習 計 画 及 び 内 容				評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	L1. Fast, Safe, and Efficient!	・日本・世界の高速鉄道の発達についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・鈍行列車のよい点を述べたエッセイを読み、本文と読み比べ、高速鉄道と鈍行列車のどちらが好きか自分の考えを述べることができる。	○	○	○	第一回
	5月	L2. Water for Life	世界の水問題を解決しよう日本の井戸掘り技術についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・クラウドファンディングサイトを読み、どの組織を支援したいか自分の考えを述べることができる。	○	○	○	
		L3. Athletes as Human Rights Leaders	・アスリートが発する社会的なメッセージについての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・オリンピック憲章の条項を読み、本文と読み比べ、条項を改定すべきか自分の考えを述べることができる。	○	○	○	
	6月	L4. The Linguistic Genius	・赤ちゃんの言語習得についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。	○	○	○	
		L5. Going Digital: What Does the Digital Age Bring?	・社会のデジタル化についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・紙の文書のよさを伝えるブログを読み、デジタル化された文書と紙の文書のどちらが好きか自分の考えを述べることができる	○	○	○	
2 学 期	7月	L6. Mirrors of the Times	・人類と病気の戦いの歴史についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・人物の伝記を読み、本文と読み比べることで理解を深め、その人物の説明を書くことができる。	○	○	○	第二回 第三回
	8月	L7. Eat Well, Play Well!	・スポーツ栄養についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。	○	○	○	
	9月	L8. The Bridge to the Science World	・橋の構造と役割についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・橋の建築計画を開き、どの地点にどの橋が適しているか、自分の考えを説明することができる。	○	○	○	
	10月	L9. Notorious RBG	・ギンズバーグ判事の生涯についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・ギンズバーグ判事が実際に関わった判例を読み、彼女が目指したものについて、自分の考えを説明することができる。	○	○	○	
	11月	L10. No Rain, No Rainbow	・三代連也さんの生き方についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・上地結衣選手インタビュー記事を読み、三代さんと上地選手の共通点について、やり取りして伝え合うことができる。	○	○	○	
3 学 期	1月	Optional Lesson 1 Never Too Old	・物語を読んで、内容について議論をする。	○	○		第四回
	2月	Optional Lesson 2 The Drawers					
	3月						

学習の方法	- a ペアワーク、グループワークなどの言語活動を通して、英文やトピックの内容について理解を深める。 - b ワークシート、予習プリントに取り組み、英語に関する知識を身に付ける。 - c 音読活動やインタビューを通して、英語の音声の特徴を理解し、英語のリズムで発話する。
-------	---

評価の仕方	・ペアワーク、グループワークへの参加状況や取組 ・ワークシート、予習プリントなどの課題への取組 ・音読テスト、口頭テストなどのインタビューテスト ・単元テスト、単語テストなどの小テスト
-------	--

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	外国語	科 目	論理・表現Ⅲ	学年	第三学年	類型	文系
単位数	3 単位	教科書	Genius English Logic and Expression Ⅲ				
副教材							

学習目標	1. コミュニケーションを支えるものとしての文法の形式・意味・機能に習熟し、必要な場面で適切な文法形式を用いて正しく表現することができる。 2. 日常的な話題や社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを論理の展開や構成を工夫しながら詳しく話して伝え合うことができる。 3. 日常的な話題や社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを論理の展開や構成を工夫しながら詳しく話して伝えることができる。 4. 日常的な話題や社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを論理の展開や構成を工夫しながら複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。
------	---

評価規準	【知識・技能】 テーマについて、必要な背景知識・語彙・表現を用いて自分の考えを述べる技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 テーマについて、自分の考えを理由とともに伝えたり、相手の質問に答えたりしている。	【主体的に学習に取り組む態度】 テーマについて、自分の考えを理由とともに伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。
------	--	--	---

		学 習 計 画 及 び 内 容	評価の観点			定期考査
			①	②	③	
1 学 期	4月	L1. Should People Have Pets? ・子どもがペットを飼うことの是非について、これまでに学んだ表現を用い、複数の資料を参考にしながら、論理の展開や構成を工夫して書く。	○	○	○	第一回
	5月	L2. Printed Books or E-Books? エッセイを書く上で必要な構成やパラグラフの展開について理解する。 L3. Which Media Provides the Most Trustworthy Information? ・グループ・ディスカッションの流れについて理解する。 ・最も信頼できるメディアは何かについて、これまでに学んだ表現を用い、複数の資料に基づく理由や具体例を交えて、論理的にグループ・ディスカッションを行う。	○	○	○	
	6月	L4. Which Language Is the Best to Learn? L5. What Abilities Will Be Needed in a Society with Highly Advanced AI? ・どの外国語を学ぶと良いかについて、エッセイを書く。 ・論理的なスピーチの展開方法について理解する。 ・AI時代に求められる能力やAIの有効活用について、聴衆に伝わるようにスピーチを行う。	○	○	○	
	7月	L6. How Can Gender Equality Be Realized? ・記事を書く上で必要な構成やパラグラフの展開について理解する。 ・ジェンダー平等について、150語以上、あるいは3つ以上のパラグラフで書く。	○	○	○	
2 学 期	8月	L7. Will Human Life Expectancy Increase? ・公共の場における防犯カメラ設置の是非について、ディベートを行う。	○	○	○	第二回
	9月	L8. Will we live in a decarbonized society in the future? ・レポートを書く上で必要な構成やパラグラフの展開について理解する。 ・将来、平均寿命が延びるかどうかにについて、150語以上、あるいは3つ以上のパラグラフで書く。	○	○	○	
	10月	L9. What Kind of Company Would You Start? ・効果的なプレゼンテーションの展開方法について理解する。	○	○	○	
	11月	L10. Better Designs for a Better Life ・高校生の困りごとを解決する新規ビジネスモデルについて、グループでプレゼンテーションをする。 ・ユニバーサルデザインについて、150語以上、あるいは3つ以上のパラグラフで書く。	○	○	○	第三回
	12月					
3 学 期	1月	L10. What Should Be Done to Protect the Earth? ・地球環境を守るためにすべきことや日本に広めたい取り組みについてエッセイを書く。	○	○		第四回
	2月					
	3月					

学習の方法	a ペアワーク、グループワークなどの言語活動を通して、英文やトピックの内容について理解を深める。 b ワークシート、予習プリントに取り組み、英語に関する知識を身に付ける。 c 音読活動やインタビューを通して、英語の音声の特徴を理解し、英語のリズムで発話する。
-------	---

評価の仕方	・ペアワーク、グループワークへの参加状況や取組 ・ワークシート、予習プリントなどの課題への取組 ・音読テスト、口頭テストなどのインタビューテスト ・単元テスト、単語テストなどの小テスト
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---

令和8年度 松山東高等学校シラバス

教 科	外国語	科 目	論理・表現Ⅲ	学年	第三学年	類型	理系
単位数	2 単位	教科書	Genius English Logic and Expression Ⅲ				
副教材							

学習目標	1. コミュニケーションを支えるものとしての文法の形式・意味・機能に習熟し、必要な場面で適切な文法形式を用いて正しく表現することができる。 2. 日常的な話題や社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを論理の展開や構成を工夫しながら詳しく話して伝え合うことができる。 3. 日常的な話題や社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを論理の展開や構成を工夫しながら詳しく話して伝えることができる。 4. 日常的な話題や社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを論理の展開や構成を工夫しながら複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。
------	---

評価規準	【知識・技能】 テーマについて、必要な背景知識・語彙・表現を用いて自分の考えを述べる技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 テーマについて、自分の考えを理由とともに伝えたり、相手の質問に答えたりしている。	【主体的に学習に取り組む態度】 テーマについて、自分の考えを理由とともに伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。
------	--	--	---

学 習 計 画 及 び 内 容				評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1 学 期	4月	L1. Should People Have Pets?	・子どもがペットを飼うことの是非について、これまでに学んだ表現を用い、複数の資料を参考にしながら、論理の展開や構成を工夫して書く。	○	○	○	第一回
	5月	L2. Printed Books or E-Books?	・エッセイを書く上で必要な構成やパラグラフの展開について理解する。	○	○	○	
		L3. Which Media Provides the Most Trustworthy Information?	・グループ・ディスカッションの流れについて理解する。 ・最も信頼できるメディアは何かについて、これまでに学んだ表現を用い、複数の資料に基づく理由や具体例を交えて、論理的にグループ・ディスカッションを行う。	○	○	○	
	6月	L4. Which Language Is the Best to Learn?	・どの外国語を学ぶと良いかについて、エッセイを書く。	○	○	○	
		L5. What Abilities Will Be Needed in a Society with Highly Advanced AI?	・論理的なスピーチの展開方法について理解する。 ・AI時代に求められる能力やAIの有効活用について、聴衆に伝わるようにスピーチを行う。	○	○	○	
2 学 期	7月	L6. How Can Gender Equality Be Realized?	・記事を書く上で必要な構成やパラグラフの展開について理解する。 ・ジェンダー平等について、150語以上、あるいは3つ以上のパラグラフで書く。	○	○	○	第二回
	8月	L7. Will Human Life Expectancy Increase?	・公共の場における防犯カメラ設置の是非について、ディベートを行う。	○	○	○	
	9月	L8. Will we live in a decarbonized society in the future?	・レポートを書く上で必要な構成やパラグラフの展開について理解する。 ・将来、平均寿命が延びるかどうかについて、150語以上、あるいは3つ以上のパラグラフで書く。	○	○	○	
	10月	L9. What Kind of Company Would You Start?	・効果的なプレゼンテーションの展開方法について理解する。 ・高校生の困りごとを解決する新規ビジネスモデルについて、グループでプレゼンテーションをする。	○	○	○	
	11月	L10. Better Designs for a Better Life	・ユニバーサルデザインについて、150語以上、あるいは3つ以上のパラグラフで書く。	○	○	○	
3 学 期	12月						第三回
	1月	L10. What Should Be Done to Protect the Earth?	・地球環境を守るためにすべきことや日本に広めたい取り組みについてエッセイを書く。	○	○		
	2月						
3 学 期	3月						第四回

学習の方法	a ペアワーク、グループワークなどの言語活動を通して、英文やトピックの内容について理解を深める。 b ワークシート、予習プリントに取り組み、英語に関する知識を身に付ける。 c 音読活動やインタビューを通して、英語の音声の特徴を理解し、英語のリズムで発話する。
-------	---

評価の仕方	・ペアワーク、グループワークへの参加状況や取組 ・ワークシート、予習プリントなどの課題への取組 ・音読テスト、口頭テストなどのインタビューテスト ・単元テスト、単語テストなどの小テスト
-------	---

評価の観点	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。)
-------	---